



イネコアコレクション(粳品種)の高温登熟性評価

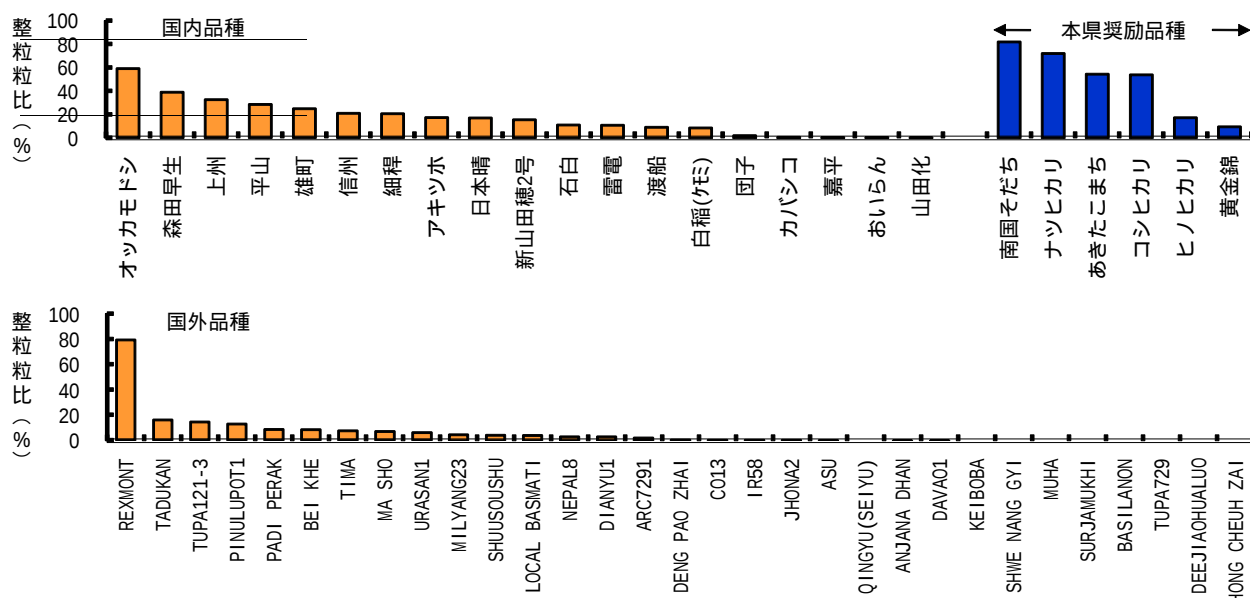
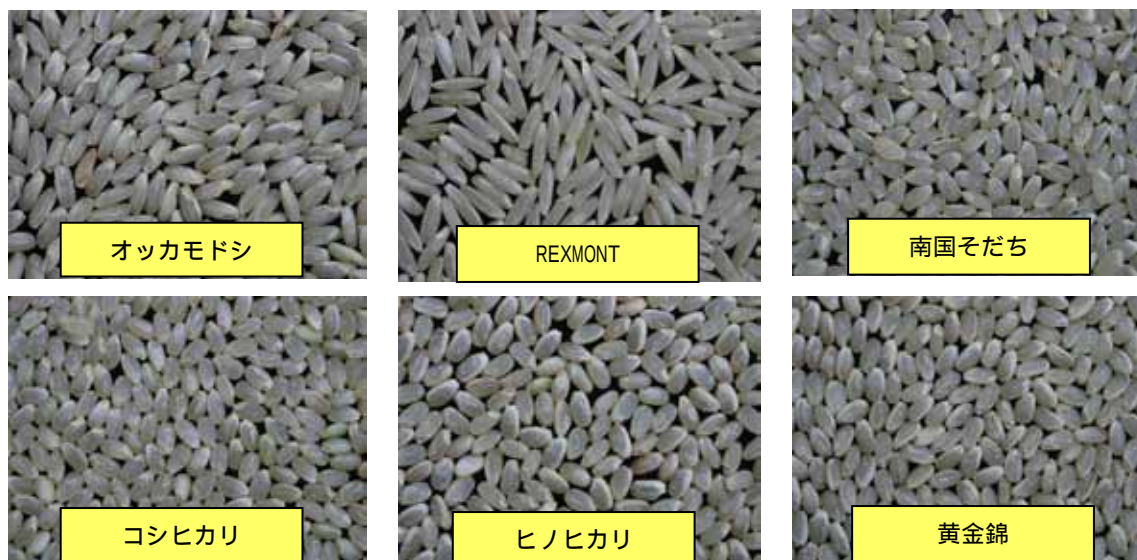


図1 イネコアコレクションの整粒粒比

整粒粒比とは穀粒判別器(サタケRGQ110A)で測定した白濁部のない完全粒の粒数比。品種の登熟温度は26.0~27.9。

近年、高知県では、登熟期間の高温に起因する水稻の玄米品質低下(白未熟粒の発生)が問題となっています。そのため、高温登熟性に優れる品種の育成が求められています。

そこで、有用な交配母本を選定するため、イネコアコレクション(遺伝的変異が説明できる代表的な品種群)の粳品種について、高温登熟条件下での整粒粒比を調査しました。

その結果、'REXMONT'(写真)では、本県奨励品種'南国そだち'、'ナツヒカリ'と同程度の高い整粒粒比を示しました。しか

し、多くの品種では本県奨励品種の整粒粒比を下回り、交配母本として有用と考えられる品種は認められませんでした(図1)。これは、イネコアコレクションは古い品種で構成されており、玄米外観品質を重視した選抜が行われていないためと考えられました。

今後は、比較的新しい品種および育成系統の中から、交配母本として有用な品種・系統の選定をさらに進め、高温登熟性に優れる品種の早期育成を図っていきます。

(水田作物担当 高田 聖 088-863-4916)